

股関節症周囲の痛みは歩行時、長時間歩行時、歩行後、運動時などに倦怠感や痛みとして現れ、時には安静時痛や就寝時痛なども呈します。運動制限は股関節の動きが制限され、日常生活動作(靴下を履く動作や瓜切り動作)などが困難となってきます。異常歩行(跛行)は特に疼痛性跛行といい、股関節の痛みによりかばいながら歩行することをいいます。また、軟骨の摩耗により足が短くなり(脚短縮)、左右の足の長さの違いでバランスがとれない歩行(硬性墜下性歩行)などがあります。

変形性股関節症の治療には、運動療法や薬物療法などの保存加療、大腿骨や骨盤の骨切り術や人工股関節全置換術などの手術療法があります。

運動療法では股関節周囲の筋力強化、薬物療法では NSAIDs などの鎮痛剤処方となります。

手術療法では、代表的なものとして人工股関節全置換術があります。人工股関節全置換術においても、股関節の前方から手術を進めていく方法と後方から進めていく方法があり、各病院で異なります。当院においては前方から進めていることが多いですが、後方から進めてく場合もあります。

股関節の違和感や痛みが出現した際には、ぜひ整形外科を受診し相談してください。痛みの原因がわかれば、安心することもできますし、これからどのようにして向かい合っていけばよいのか明確になることと思います。

当センター整形外科では多くの方々の生活を少しでも改善するべく、全力でサポートをしております。少しでも股関節に心配がある方はぜひ受診相談していただければと思います。

みどりの丘

緑の「街」が見つめる医療

第 260 号 2023 年 2 月 1 日発行

 東京医科大学八王子医療センター
TOKYO MEDICAL UNIVERSITY HACHIOJI MEDICAL CENTER

